

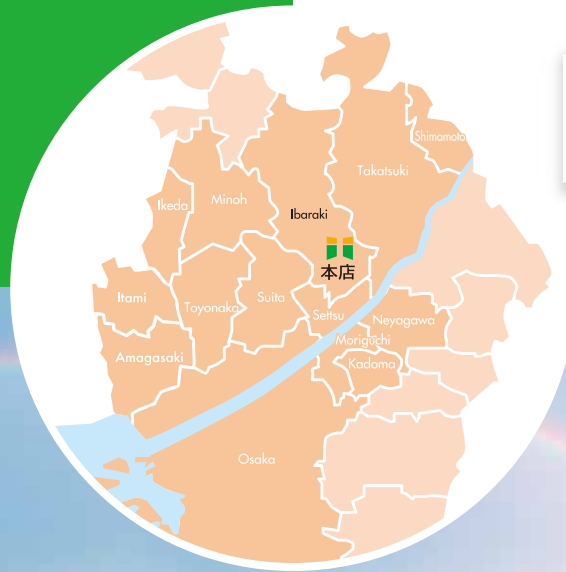
The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

景況レポート

2020年1~3月期 No.25

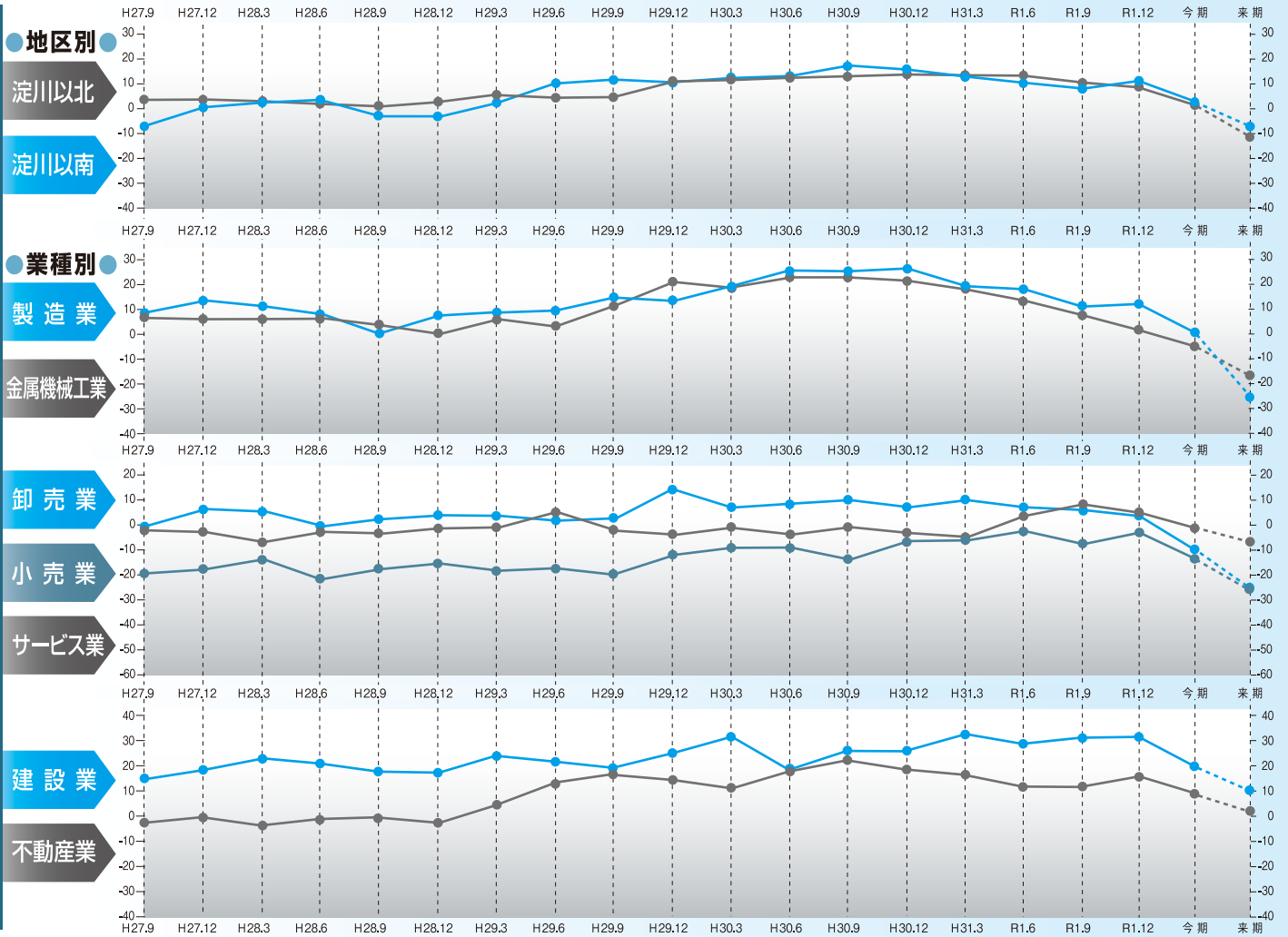
Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫





INDEX

地区別・業種別 業況判断DII 来期予想までの推移・目次	1
調査概要	2
全業種総合	3・4
製造業	5
金属機械工業	6
卸売業	7
小売業	8
サービス業	9
建設業	10
不動産業	11
特別調査「事務効率化に関する調査について」	12・13・14

〈調査概要〉 調査対象……………地元企業1,200社(有効回答1,200社)
 調査時期……………2020年3月
 調査対象期間…2020年1月～3月期 当期の実績(2019年10月～12月期との比較)
 2020年4月～6月期 来期の見通し(2020年1月～3月期との比較)
 調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査
 分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例) 良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1) 売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
- (2) 業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

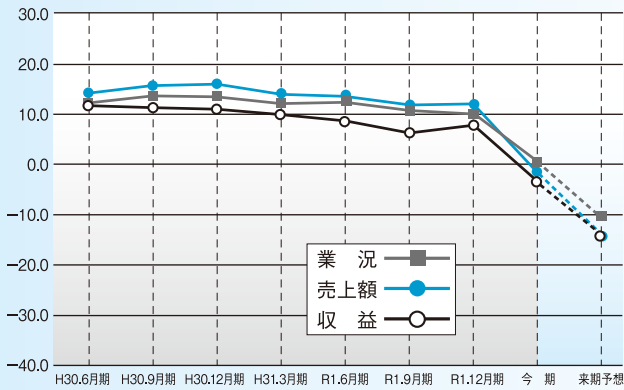
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	35	48	53	24	19	14	7	200	16.7%
金属機械工業	48	57	40	25	19	4	7	200	16.7%
卸 売 業	42	28	19	13	10	5	3	120	10.0%
小 売 業	85	23	21	7	4	7	3	150	12.5%
サービス業	54	40	34	12	25	23	12	200	16.7%
建 設 業	59	55	58	16	5	5	2	200	16.7%
不 動 産 業	85	29	10	1	4	—	1	130	10.8%
合 計	408	280	235	98	86	58	35	1,200	100.0%
(構成比)	34.0%	23.3%	19.6%	8.2%	7.2%	4.8%	2.9%	100.0%	—

*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

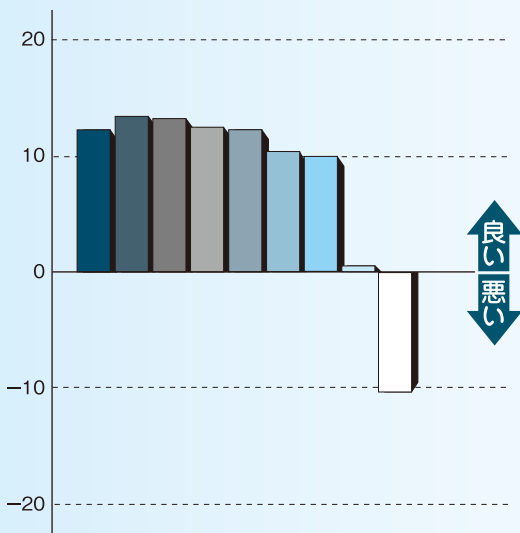
業況・売上額・収益



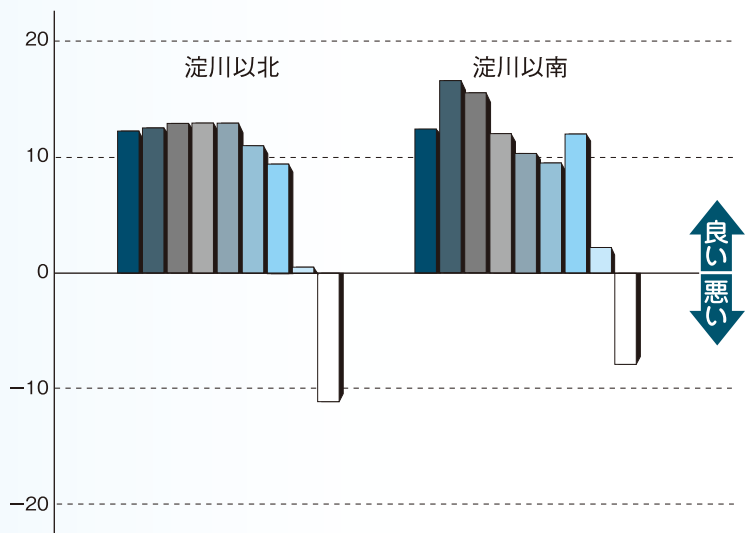
全業種総合 DI値の推移

	H30.6月期	H30.9月期	H30.12月期	H31.3月期	R1.6月期	R1.9月期	R1.12月期	今期	来期予想
業況	12.5	13.8	13.6	12.7	12.5	10.6	10.0	0.7	-10.1
売上額	14.8	15.9	16.2	14.4	14.1	11.8	12.0	-1.6	-14.2
受注残	20.0	20.8	23.7	23.5	17.1	11.1	14.1	1.1	-9.2
施工高	18.5	17.0	23.0	28.5	25.0	25.0	30.5	11.5	6.5
収益	12.1	11.5	11.1	10.0	8.7	6.3	7.9	-2.8	-14.2
販売価格	5.1	4.5	5.1	6.1	5.2	4.9	7.4	3.3	0.8
原材料・仕入価格	13.4	11.4	12.6	13.7	13.7	11.6	14.1	9.3	7.8
在庫	-1.8	-2.5	-1.6	-1.9	-0.9	-1.5	-0.5	-1.5	-3.1
資金繰り	-0.7	-0.3	0.0	-0.5	0.7	0.2	0.0	-3.7	-6.2
従業員残業時間	6.1	8.2	8.8	9.3	7.3	5.7	6.1	2.5	0.2
従業員人手	-18.3	-20.3	-20.6	-21.9	-20.8	-20.5	-20.2	-17.6	-17.6
設備状況	-7.1	-7.2	-7.2	-8.1	-8.0	-7.8	-7.5	4.4	-6.2

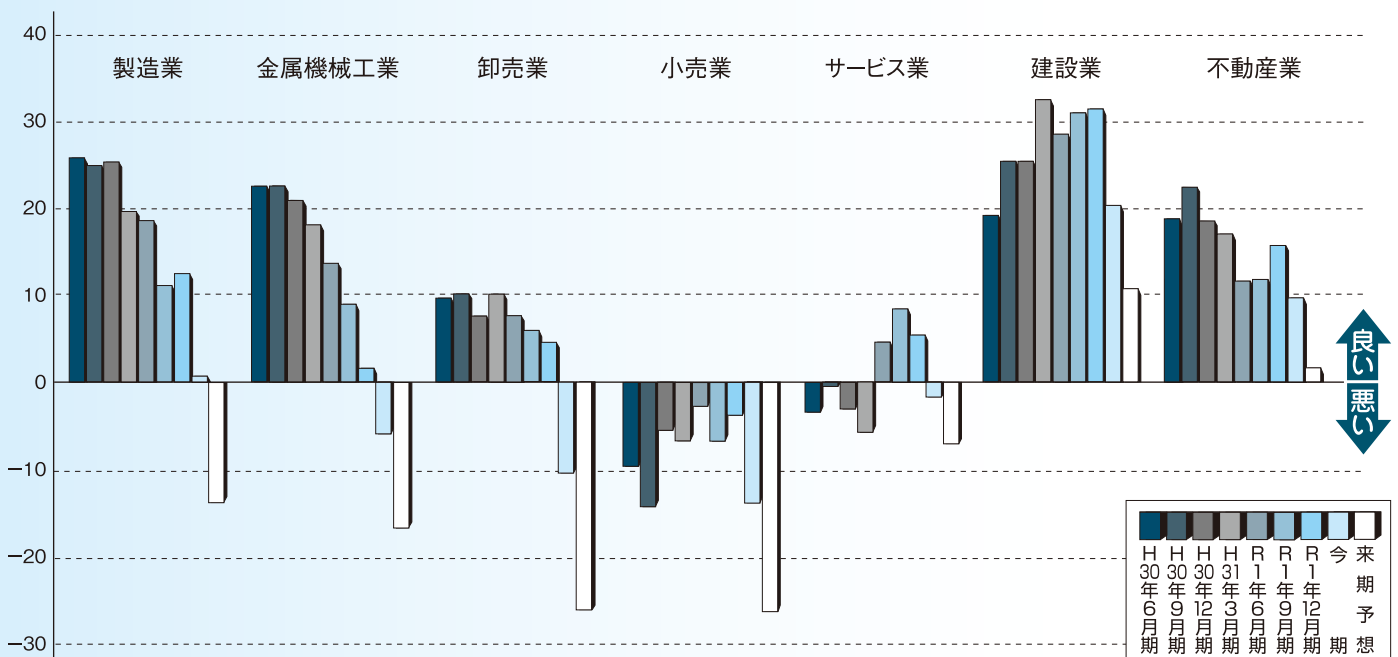
全体業況判断DI



地区別業況判断DI



業種別業況判断DI



業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比9.3ポイントの悪化(過去2番目)

2020年1月～3月期、全業種の業況判断(DI)は0.7(前期比9.3ポイント減)となり、悪化幅は調査を開始した2009年以降、最も大きかった2014年4月の消費増税(5%→8%)直後の6月調査(前期比10.5ポイント減)に次ぐ悪化となった。

来期予想の業況判断(▲10.1)は、大幅な悪化で推移すると見通しとなっている。

《業種別》

一全業種で悪化。卸売業14.2ポイント悪化、製造業、建設業何れも11.5ポイント悪化など一

業種別にみると、10ポイント以上悪化したのは「建設業」20.0(前期比11.5ポイント減)、「製造業」0.5(同11.5ポイント減)、「卸売業」▲10.0(同14.2ポイント減)。10ポイント未満では「不動産業」9.2(同6.2ポイント減)、「サービス業」▲1.5(同6.5ポイント減)、「金属機械工業」▲5.0(同6.5ポイント減)、「小売業」▲13.3(同9.9ポイント減)となった。

～淀川以北地域は悪化、淀川以南地域は大幅悪化～

地域別にみると、淀川以北地域の業況判断(DI)は0.3(前期比9.1ポイント減)となり悪化となった。淀川以南地域は同2.2(前期比10.0ポイント減)となり、大幅な悪化となった。淀川以北地域の業種別では、建設業(前期28.8→今期17.6)、製造業(同12.0→同2.0)卸売業(同5.0→同▲11.0)、小売業(同0.9→同▲11.1)で大幅な悪化となった。また、不動産業(同12.1→同7.0)、サービス業(同1.9→同▲1.9)、金属機械工業(同1.3→同▲7.4)、いずれも悪化となった。淀川以南地域の業種別では、建設業(前期43.2→今期30.5)、サービス業(同17.0→同0.0)、製造業(同11.8→同▲3.9)、卸売業(同2.5→同▲7.9)で大幅な悪化となった。また、不動産業(同25.8→同16.1)、小売業(同▲18.1→同▲21.2)でも悪化となった。一方、金属機械工業(同2.5→同5.2)は小幅な改善となった。

来期の業況判断予想の淀川以北地域(▲11.0)は、大幅に悪化すると見通しとなっている。淀川以南地域(▲7.4)は悪化すると見通しとなっている。

売上額・収益の動き

～売上額は13.6ポイント悪化(過去2番目)、収益も大幅悪化～

売上額判断(DI)は▲1.6(前期比13.6ポイント減)となり、大幅な悪化となった。低下幅は業況判断同様に過去2番目(1番目は2014年6月調査の前期比16.7減)となった。収益判断(DI)も▲2.8(前期比10.7ポイント減)となり大幅な悪化となった。

来期予想の売上額判断(▲14.2)、収益判断(▲14.2)は、いずれも大幅に悪化すると見通しとなっている。

販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、原材料(仕入)価格は改善～

販売価格判断(DI)は3.3(前期比4.1ポイント減)となり、悪化となった。原材料・仕入価格判断(DI)は9.3(前期比4.8ポイント減)となり改善となった。

来期予想の販売価格判断(0.8)は、小幅に悪化の見通しとなっている。原材料・仕入価格判断(7.8)は、小幅に改善の見通しとなっている。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは悪化、人手はわずかに改善～

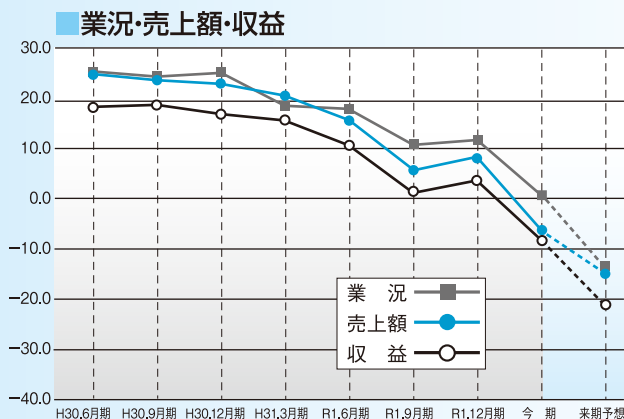
資金繰り判断(DI)は▲3.7(前期比3.7ポイント減)となり悪化となった。人手判断(DI)は▲17.6(前期比2.6ポイント増)となり、小幅な改善となった。人手過剰とする企業の割合は前期(1.7%)→今期(1.8%)、適正とした企業の割合は前期(76.4%)→今期(78.8%)、不足とする企業の割合は前期(21.9%)→今期(19.4%)となった。

経営上の問題点

	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	同業者間の競争の激化	45.7%	人手不足	34.7%	売上の停滞・減少	29.1%	利幅の縮小	22.1%	大手企業との競争の激化 原材料・料金価格高(同率)	12.6%
金属機械工業	同業者間の競争の激化	45.0%	人手不足	32.5%	売上の停滞・減少	31.0%	利幅の縮小	20.5%	工場・狭小、機械の老朽化	20.5%
卸売業	同業者間の競争の激化	57.5%	売上の停滞・減少	35.0%	輸入品との競争の激化	16.7%	利幅の縮小	15.8%	人手不足(同率) 為替レートの変動	10.8%
小売業	売上の停滞・減少	39.3%	同業者間の競争の激化	38.7%	大型店との競争激化	38.7%	商店街の集客力の低下	22.0%	商圏人口の減少	16.0%
サービス業	同業者間の競争の激化	52.5%	人手不足	33.0%	売上の停滞・減少	27.5%	人件費の増加	21.0%	利幅の縮小	14.5%
建設業	人手不足	49.5%	同業者間の競争の激化	42.0%	下請けの確保難	31.0%	利幅の縮小	23.5%	売上の停滞・減少	18.5%
不動産業	商品物件の不足	63.1%	同業者間の競争の激化	56.2%	商品物件の高騰	43.8%	利幅の縮小	22.3%	売上の停滞・減少	16.9%

当面の重点経営施策

	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	販路を広げる	59.0%	経費を節減	41.5%	人材確保	28.0%	情報力を強化	27.5%	新製品・技術を開発	22.5%
金属機械工業	販路を広げる	59.0%	経費を節減	51.0%	人材確保	34.0%	情報力を強化	20.5%	教育訓練を強化	17.5%
卸売業	販路を広げる	70.8%	経費を節減	47.5%	情報力を強化	36.7%	品揃えを充実	20.8%	提携先を見つける	20.0%
小売業	経費を節減	51.3%	宣伝・広告を強化	44.0%	売れ筋商品を取扱う	32.7%	品揃えを充実	32.0%	商店街事業を活性化	24.7%
サービス業	経費を節減	51.5%	販路を広げる	48.5%	宣伝・広告を強化	36.0%	人材確保	27.5%	提携先を見つける	16.5%
建設業	人材確保	54.0%	経費を節減	52.0%	販路を広げる	43.5%	情報力を強化	28.5%	技術力を強化	22.5%
不動産業	情報力を強化	79.2%	宣伝・広告を強化	43.8%	経費を節減	34.6%	販路を広げる	33.8%	不動産の有効活用	13.8%



製造業 DI値の推移

	H30.6月期	H30.9月期	H30.12月期	H31.3月期	R1.6月期	R1.9月期	R1.12月期	今期	来期予想
業況	26.0	25.0	25.5	19.5	18.5	10.5	12.0	0.5	-13.5
売上額	25.0	24.0	23.0	21.0	16.0	5.5	8.0	-6.0	-14.5
受注残	27.0	24.0	22.0	19.5	13.0	4.5	7.5	-5.0	-14.5
収益	19.0	19.5	17.5	16.0	10.5	1.0	3.5	-8.0	-21.0
販売価格	5.0	6.0	5.5	6.5	7.0	2.5	3.5	-1.5	-1.0
原材料価格	11.5	10.5	12.5	15.5	16.5	10.0	13.5	9.5	6.0
在庫	2.0	0.5	3.0	3.0	3.5	3.0	2.5	1.0	-1.5
資金繰り	6.0	6.5	11.5	5.0	6.5	0.0	4.5	-1.0	-1.5
従業員残業時間	11.0	13.0	12.0	14.0	8.5	3.5	6.5	1.0	-2.5
従業員人手	-20.0	-22.0	-22.5	-22.5	-23.5	-22.0	-24.5	-23.0	-22.5
設備状況	-11.0	-12.5	-11.0	-13.5	-12.5	-12.5	-9.0	-7.0	-6.5

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比11.5ポイントの悪化(調査開始以来の低下幅)～

2020年1月～3月期、製造業の業況判断(DI)は0.5(前期比11.5ポイント減)となり、大幅な悪化となった(前期比11.5ポイント低下したのは調査開始以来初めて)。来期は更にDIの低下を予想しており業況の悪化はさらに強まる気配が伺われる。最多納入先別にみる業況判断(DI)では、小幅に改善したのは「小売・最終需要家向け」(前期27.8→今期29.4)、かなり大幅な低下は「大手メーカー向け」(同29.8→同0.0)、「問屋・商社向け」(同22.7→同0.0)で厳しい状況にある。「中小メーカー向け」では(前期0.0→同▲3.5)の低下となった。

来期予想の業況判断(▲13.5)は、さらに悪化するとの見通しとなっている。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	22	48	113	17
良い～悪い	1	0	0	-4	5
DI	0.5	0.0	0.0	-3.5	29.4

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益、受注残ともに大幅悪化～

売上額判断(DI)は▲6.0(前期比14.0ポイント減)、となり、大幅な悪化となった。収益判断(DI)は▲8.0(前期比11.5ポイント減)、また受注残判断(DI)は▲5.0(前期比12.5ポイント減)となり、いずれも大幅な悪化となった。

来期予想の売上額判断(▲14.5)、収益判断(▲21.0)、受注残判断(▲14.5)は、さらに悪化するとの見通しとなっている。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は悪化、原材料価格は改善～

販売価格判断(DI)は▲1.5(前期比▲5.0ポイント減)となり、悪化となった。原材料価格判断(DI)は9.5(前期比▲4ポイント減)となり、改善となった。

来期予想の販売価格判断(▲1.0)は、ほぼ横ばいとの見通しとなっている。原材料価格判断(6.0)は、改善するとの見通しとなっている。

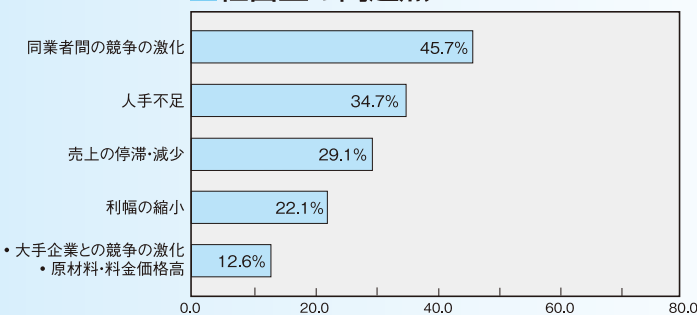
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは悪化、人手(▲23.0)は小幅改善～

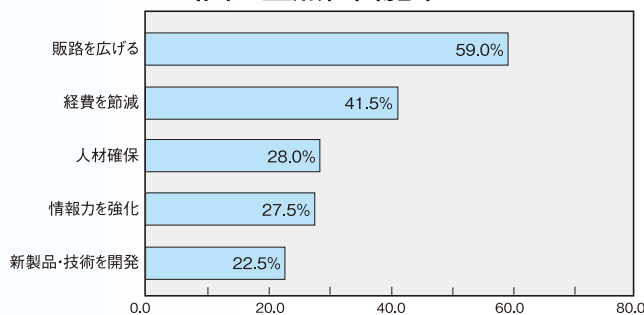
資金繰り判断(DI)は▲1.0(前期比▲5.5ポイント減)となり、悪化となった。人手判断(DI)は▲23.0(前期比1.5ポイント増)となり、小幅な改善となった。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(1.5%)→今期(2.0%)、適正とした企業の割合は前期(72.5%)→今期(73.0%)、不足とした企業は前期(26.0%)→今期(25.0%)となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

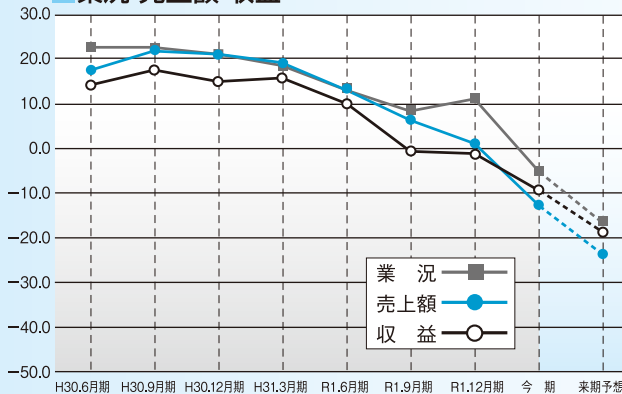


企業のコメント



- ・ 今期は売上、受注は増加となったが、新型コロナウイルスの影響で各地のイベント等が自粛され、今後の売上に大きく影響がでる。(地ビール製造)
- ・ 業況は極めて良好で、売上、利益とも増加となった。(防虫剤、噴霧器製造)
- ・ コロナウイルスの影響で一部の原材料は仕入が困難になっている。(工作機械の製造)
- ・ 取引先の商社も新型コロナウイルスの影響を受けて、当社の海外販売に影響が出ている。(工業用ゴム製品)
- ・ 取引先が新型コロナウイルスの影響を受け、同社向けの売上は減少となっている。(機械装置)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で原材料の仕入が鈍化している。このままだと数か月先の売上に影響がでる。(プラスチック製造)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	今期	来期予想
業況	22.5	22.5	21.0	18.0	13.5	8.5	1.5	-5.0	-16.5
売上額	17.5	21.5	21.0	19.0	13.5	6.0	1.0	-12.5	-23.0
受注残	17.0	19.5	21.0	18.5	12.5	3.0	3.5	-9.0	-21.5
収益	14.0	17.5	15.0	16.0	10.0	-0.5	-1.0	-9.5	-18.5
販売価格	4.5	3.0	4.0	2.5	0.5	-1.0	2.5	1.5	0.0
原材料価格	10.5	9.0	10.5	9.5	11.0	6.0	8.0	8.5	6.5
在庫	1.5	0.0	0.0	1.5	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0
資金繰り	-0.5	7.0	6.5	7.0	7.5	6.0	3.0	-0.5	-2.5
従業員残業時間	9.0	8.0	12.0	12.5	9.5	6.0	3.0	-1.5	-5.5
従業員人手	-26.5	-24.5	-22.0	-26.5	-25.0	-22.0	-19.0	-11.0	-11.0
設備状況	-12.0	-12.0	-13.5	-14.5	-12.5	-10.5	-12.0	12.5	-11.0

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比6.5ポイントの悪化～

2020年1月～3月期、金属機械工業の業況判断(DI)は▲5.0(前期比6.5ポイント減)となり、2014年3月期以降のプラスからマイナスに転じ、悪化となった。前年同期比では23.0ポイント低下しており、厳しい状況にある。最多納入先別の業況判断(DI)は、「問屋・商社向け」(前期13.3→今期▲16.7)とかなり大幅に低下。「大メーカー向け」(同11.3→同4.3)、「中小メーカー向け」(同▲3.7→同▲10.7)など低下。来期予想も業況判断(▲16.5)は、大幅に悪化すると見通しとなっている。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要
全体	200	12	69	112	7
良い～悪い	-10	-2	3	-12	1
DI	-5.0	-16.7	4.3	-10.7	14.3

売上額・収益・受注の動き

～売上額は大幅悪化、受注残も大幅悪化。収益は悪化～

売上額判断(DI)は▲12.5(前期比13.5ポイント減)となり、大幅な悪化となった。(DIがマイナスに転じたのは2013年9月調査以来6年6か月ぶり)。受注残判断(DI)は▲9.0(前期比12.5ポイント減)となり大幅な悪化となった。収益判断(DI)は▲9.5(前期比8.5ポイント減)となり悪化した。来期予想の売上額判断(▲23.0)は、大幅に悪化すると見通しとなっている。受注残判断(▲21.5)も、大幅に悪化すると見通しとなっている。収益判断(▲18.5)は、悪化の見通しとなっている。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は小幅悪化、原材料価格はほぼ横ばい～

販売価格判断(DI)は1.5(前期比1.0ポイント減)となり、小幅な悪化となった。原材料価格判断(DI)は8.5(前期比0.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。来期予想の販売価格判断(0.0)は、小幅に悪化すると見通しとなっている。原材料価格判断(6.5)は、小幅に改善すると見通しとなっている。

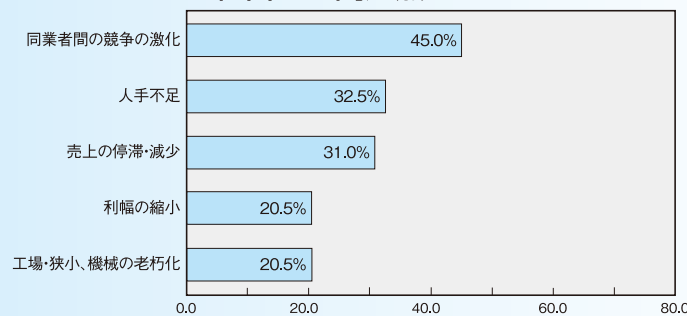
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは悪化、人手は改善(4四半期連続)～

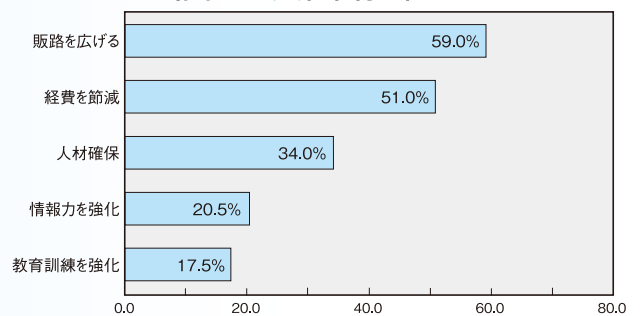
資金繰り判断(DI)は▲0.5(前期比3.5ポイント減)となり、悪化となった。人手判断(DI)は▲11.0(前期比8.0ポイント増)となり、引き続きマイナス水準ながら4四半期連続の改善となった。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(2.5%)→今期(2.0%)、適正とした企業の割合は前期(76.0%)→今期(85.0%)、不足とした企業の割合は前期(21.5%)→今期(13.0%)となった。

経営上の問題点

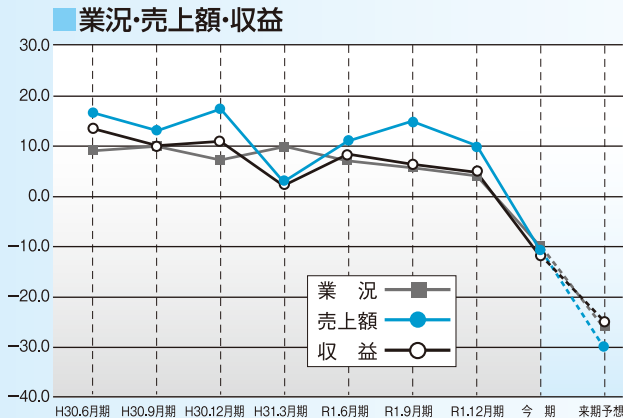


当面の重点経営施策



企業のコメント

- ・ 国内の需要は高まっており、受注、売上は増加となっている。(ポンプ部品・機械部品・鋳造品製造)
- ・ 業況は良く、新型コロナウイルスの影響は特にない。長期的には中東方面の仕事を抱えており、材料確保もできている。(ポンプ部品加工)
- ・ 外国人労働者の離職率が高く、人手確保が難しい。(金属製品製造)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で1か月程度の休業があり、売上は減少した。今後の売上を不安視している。(電気機械器具製造)
- ・ 貿易が止まって、鉄の価格が上昇している。在庫も不足気味で今後の売上、収益に影響がでる。(金属加工)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で展示会等の中止が多く、売上は減少している。(生花店、園芸店用什器、備品生産販売)



卸売業 DI値の推移

	H30.6月期	H30.9月期	H30.12月期	H31.3月期	R1.6月期	R1.9月期	R1.12月期	今期	来期予想
業況	9.2	10.0	7.5	10.0	7.5	5.9	4.2	-10.0	-25.9
売上額	16.7	13.3	17.5	3.3	10.8	15.0	10.0	-10.8	-30.0
収益	13.3	10.0	10.8	2.5	8.4	6.6	5.0	-11.7	-25.0
販売価格	8.3	9.2	7.5	7.5	3.4	2.5	5.0	-1.6	-4.2
仕入価格	13.3	10.8	11.7	10.0	8.4	6.7	6.7	2.5	5.0
在庫	0.9	0.8	1.7	0.0	3.3	-0.9	0.8	2.5	3.3
資金繰り	-2.5	-2.5	0.9	-10.8	-3.3	-0.8	2.5	-1.7	-10.8
従業員残業時間	4.1	5.9	2.5	2.5	6.7	4.2	4.1	-1.7	-5.0
従業員人手	-11.7	-12.5	-12.5	-8.3	-14.2	-8.4	-10.8	-3.4	-4.2
設備状況	0.8	-2.5	-2.5	-2.5	-4.2	-4.2	-3.4	-2.5	-0.9

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比14.2ポイントの悪化(調査開始以来最大)～

2020年1月～3月期、卸売業の業況判断(DI)は▲10.0(前期比14.2ポイント減)となり、大幅な悪化となった(低下幅は2009年の調査開始以来最も大きい)。

最多納入先別の業況判断(DI)がかなり大幅に悪化したのは「中小メーカー向け」(前期9.3→今期▲2.3)、「問屋・商社向け」(同8.7→同▲13.6)、「大メーカー向け」(同0.0→同▲23.8)は2012年9月期以降のプラスからマイナスに転じた。悪化したのは、「小売業者向け」(同▲2.9→▲9.1)。

来期予想の業況判断(▲25.9)は、引き続き大幅に悪化すると見通しとなっている。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売業者
全体	120	22	21	44	33
良い～悪い	-12	-3	-5	-1	-3
DI	-10.0	-13.6	-23.8	-2.3	-9.1

売上額・収益の動き

～売上額、収益ともかなり大幅に悪化(いずれも4年6か月ぶりにマイナスに)～

売上額判断(DI)は▲10.8(前期比20.8ポイント減)となり、4年6か月ぶりにマイナスに転じ、かなり大幅な悪化となった。前期比20.8ポイント低下したのは初めて(過去2015年9月期の前期比マイナス16.7ポイントが最大)。収益判断(DI)も▲11.7(前期比16.7ポイント減)となり、4年6か月ぶりにマイナスに転じてかなり大幅な悪化となった。(収益判断も前期比16.7ポイントの低下は調査開始以来最大)

来期予想の売上額判断(▲30.0)、収益判断(▲25.0)は、今後も厳しい状況で推移すると見通しとなっている。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、仕入価格は改善～

販売価格判断(DI)は▲1.6(前期比6.6ポイント減)となり、悪化となった。仕入価格判断(DI)は2.5(前期比4.2ポイント減)となり、改善となった。

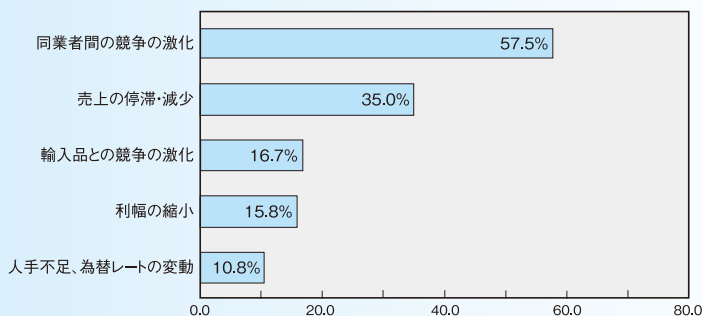
来期予想の販売価格(▲4.2)は、小幅に悪化すると見通しとなっている。仕入価格判断(5.0)は小幅に悪化すると見通しとなっている。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

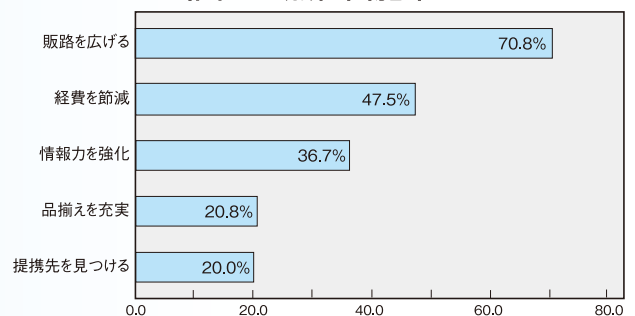
～在庫は小幅改善、資金繰りは悪化、人手は改善～

在庫判断(DI)は2.5(前期比1.7ポイント増)となり、小幅な改善となった。資金繰り判断(DI)は▲1.7(前期比4.2ポイント減)となり、悪化となった。人手判断(DI)は▲3.4(前期比7.4ポイント増)となり、改善となった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(2.5%)→今期(3.3%)、適正とした企業の割合は前期(84.2%)→今期(90.0%)、不足とした企業の割合は前期(13.3%)→今期(6.7%)となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

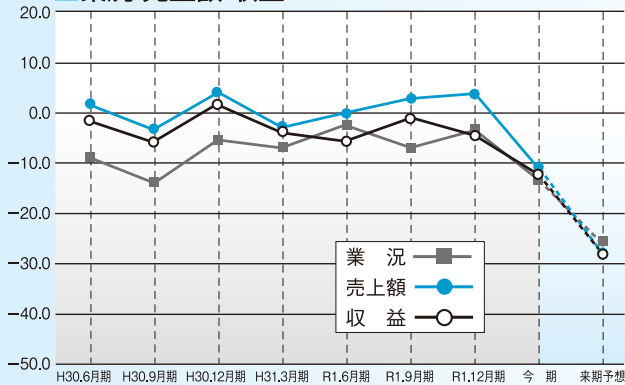


企業のコメント



- ・業況は良く、売上、収益は増加となった。鉄道関係の長期的受注もあり、来期も好調の見通しである。(生コンクリート)
- ・売上、収益とも増加となった。新商品の開発も順調に進んでおり、今後の売上に貢献すると考えている。(特殊型水路)
- ・新型コロナウイルスの影響で中国の工場からの入荷が出来ていない。在庫も先行き不安な状況にある。この状況がいつまで続くか不安である。(衣料品卸)
- ・新型コロナウイルスの影響で中国から商品が入らず、品薄状態が起きている。(住宅設備販売)
- ・新型コロナウイルスの影響で2月、3月は売上が落ち込んでいる。中国からの物流が止まれば売上に大きく影響がでる。(電子部品、アウトソーシング)
- ・中国企業との取引がメインで新型コロナウイルス等の影響から売上、収益は減少となった。(家具・日用品)

業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	今期	来期予想
業況	-9.3	-14.0	-5.4	-6.7	-2.6	-6.7	-3.4	-13.3	-26.0
売上額	2.0	-3.3	4.0	-3.3	0.0	3.4	4.7	-10.7	-28.0
収益	-1.4	-5.3	2.0	-4.7	-5.3	-1.3	-4.7	-12.6	-28.0
販売価格	6.0	2.6	6.7	-1.3	4.6	4.0	10.0	8.0	2.7
仕入価格	13.3	8.0	9.3	6.0	9.3	10.7	13.3	6.0	4.0
在庫	4.0	0.0	2.6	0.7	2.0	4.0	4.7	0.0	-3.4
資金繰り	-6.7	-11.3	-9.4	-10.0	-12.0	-8.7	-7.3	-14.6	-19.3
従業員残業時間	0.0	3.4	4.6	3.3	0.7	0.7	2.0	-0.7	-2.7
従業員人手	-10.0	-10.7	-9.4	-10.7	-10.6	-13.3	-10.0	-11.3	-10.7
設備状況	-2.7	-4.0	-2.0	-2.7	-4.7	-4.0	-3.3	-4.0	-5.3

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比9.9ポイントの悪化～

2020年1月～3月期、小売業の業況判断(DI)は▲13.3(前期比9.9ポイント減)となり、悪化となった。店舗立地地域別に業況判断(DI)は「駅周辺商店街」(前期▲3.4→今期▲18.6)、「住宅地隣接商店街」(前期▲2.6→今期▲14.6)で大幅な悪化となった。「その他」(前期▲3.8→今期▲6.0)。

来期予想の業況判断(▲26.0)は、さらに大幅に悪化すると見通しとなっている。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	その他
全体	150	59	41	50
良い～悪い	-20	-11	-6	-3
DI	-13.3	-18.6	-14.6	-6.0

売上額・収益の動き

～売上額はかなり大幅な悪化、収益は悪化～

売上額判断(DI)は▲10.7(前期比15.4ポイント減)となり、大幅な悪化となった。前期比10ポイント以上低下したのは、2014年消費税(5%→8%)直後の6月期調査の前月比25.3ポイント低下して以来となった。収益判断(DI)は▲12.6(前期比7.9ポイント減)となり、悪化となった。

来期予想の売上額判断(▲28.0)、収益判断(▲28.0)は、いずれも大幅に悪化すると見通しとなっている。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は小幅悪化、仕入価格は改善～

販売価格判断(DI)は8.0(前期比2.0ポイント減)となり、小幅な悪化となった。仕入価格判断(DI)は6.0(前期比▲7.3ポイント減)となり、改善となった。来期予想の販売価格判断(2.7)は、悪化すると見通しとなっている。仕入価格判断(4.0)は、小幅に改善すると見通しとなっている。

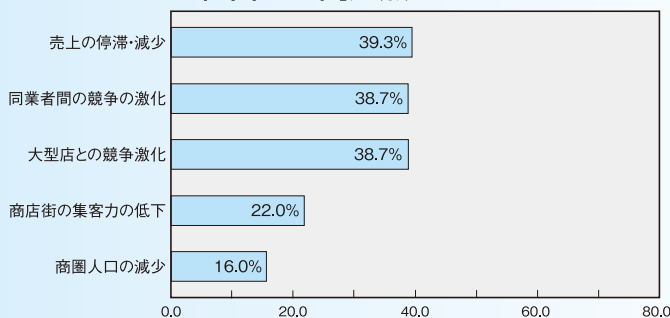
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは悪化、人手は小幅悪化～

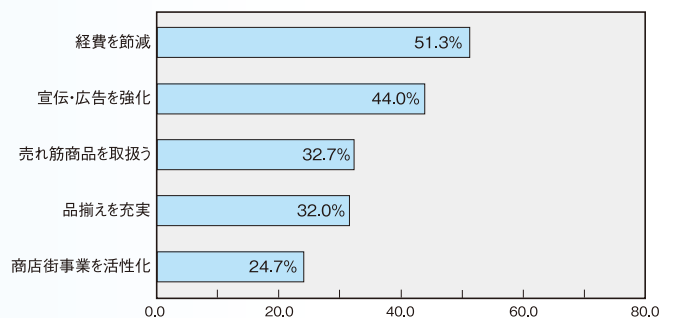
資金繰り判断(DI)は▲14.6(前期比7.3ポイント減)となり、悪化となった。人手判断(DI)は▲11.3(前期比1.3ポイント減)となり、小幅な悪化となった。来期予想の資金繰り判断(▲19.3)は、悪化の見通しとなっている。人手判断(▲10.7)は、小幅に悪化の見通しとなっている。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(1.3%)→今期(0.7%)、適正とした企業の割合は前期(87.4%)→今期(87.3%)、不足とした企業の割合は前期(11.3%)→今期(12.0%)となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

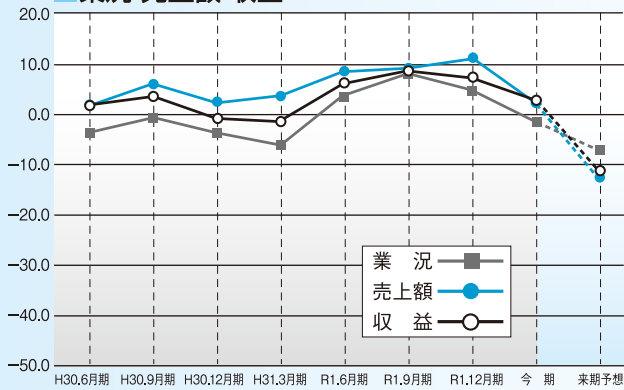


企業のコメント



- ・消毒液等は通常よりも良く売れている。注文は多く、在庫も十分にある。(医薬品)
- ・カード決済対応をしたことで、顧客単価は増え売上、収益は増加となった。(食料品小売)
- ・新型コロナウイルスの影響で予約のキャンセルが出ている(和菓子)
- ・新型コロナウイルスの影響で中国からの仕入はストップしている。(建設資材販売)
- ・イベントの中止でキャンセルが発生しており、売上は減少している。(呉服販売、レンタル)
- ・外国人旅行者の来店は無くなってきている。国内の利用客も減少となっており、売上は減少となった。(飲食店)

■ 業況・売上額・収益



■ サービス業 DI値の推移

	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	今期	来期予想
業況	-3.0	-0.5	-3.0	-5.5	4.5	8.0	5.0	-1.5	-7.0
売上額	2.0	6.0	2.5	4.0	9.0	9.5	11.0	2.0	-13.0
収益	2.0	3.0	-0.5	-1.5	6.5	9.0	7.5	2.5	-11.5
料金価格	2.5	1.0	0.0	3.0	4.5	5.0	5.5	2.5	0.0
材料価格	7.0	4.0	5.5	6.0	4.5	8.0	9.0	7.5	5.5
資金繰り	-5.0	-7.0	-9.5	-7.0	-3.0	-0.5	-7.0	-5.0	-5.0
従業員残業時間	4.5	4.5	3.5	4.0	1.5	7.0	7.5	4.0	5.0
従業員人手	-18.0	-20.5	-16.5	-24.0	-17.5	-20.5	-20.5	-18.5	-18.5
設備状況	-9.5	-7.0	-5.5	-7.1	-7.0	-5.5	-9.5	-7.5	-6.5

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比6.5ポイントの悪化～

2020年1月～3月期、サービス業の業況判断(DI)は▲1.5(前期比6.5ポイント減)となり、1年ぶりにマイナスに転じて悪化となった。来期予想の業況判断(▲7.0)は、さらに悪化するとの見通しとなっている。

売上額・収益の動き

～売上額、収益ともに悪化～

売上額判断(DI)は2.0(前期比9.0ポイント減)となり、5四半期ぶりに前期比マイナスで悪化となった。収益判断(DI)は2.5(前期比5.0ポイント減)となり、悪化となった。

来期予想の売上額判断(▲13.0)、収益判断(▲11.5)は、ともに大幅に悪化するとの見通しとなっている。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格は悪化、材料価格は小幅改善～

料金価格判断(DI)は2.5(前期比3.0ポイント減)となり、悪化となった。材料価格判断(DI)は7.5(前期比1.5ポイント減)となり、小幅な改善となった。

来期予想の料金価格判断(0.0)は、小幅に悪化の見通しとなっている。材料価格判断(5.5)は、小幅に改善の見通しとなっている。

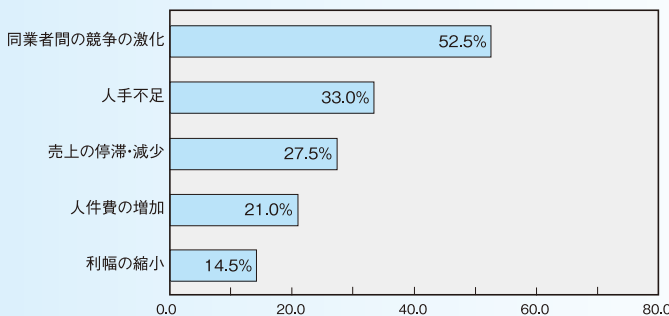
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰り、人手ともに小幅改善～

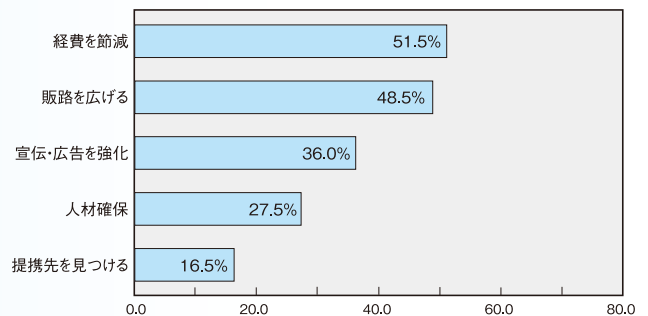
資金繰り判断(DI)は▲5.0(前期比2.0ポイント増)となり、小幅な改善となった。人手判断(DI)は▲18.5(前期2.0ポイント増)となり、小幅な改善となった。人手は建設業(▲36.0)、製造業(▲23.0)に次いで不足の状況。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(1.0%)→今期(2.5%)、適正とした企業の割合は前期(77.5%)→今期(76.5%)、人手不足とした企業の割合は前期(21.5%)→今期(21.0%)となった。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

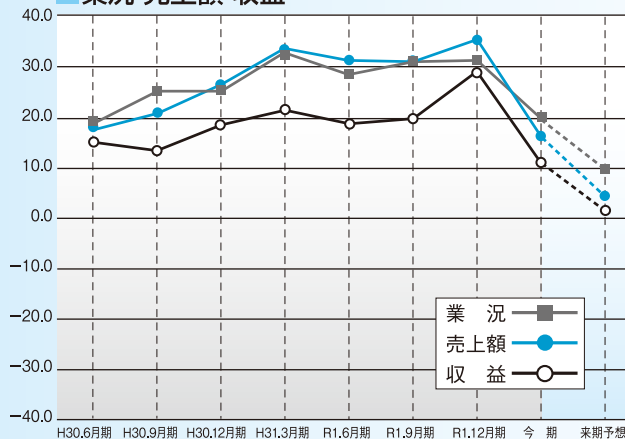


企業のコメント



- ・ 業況はやや悪くなっているものの、売上は前期比増加した。(運送業)
- ・ 業況は良いが、マスク不足が発生している。(介護・福祉)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で来店客数が減少している。食材の値上がりも予想され、今後の経営を見直さなければならないと思っている。(居酒屋)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で売上は減少してきている。例年季節需要があるが、予約の3分の1がキャンセルが出ている。(仕出し)
- ・ 売上は大幅に減少している。大幅に利用客は減少しており、新型コロナウイルスの影響と思われる。(美容・理容業)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、3月に入って2週間程度の休業が売上に影響した。(スイミングスクール経営)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	今期	来期予想
業況	19.0	25.5	25.5	32.5	28.5	31.0	31.5	20.0	10.0
売上額	18.0	21.0	27.0	33.5	32.0	31.0	35.5	16.0	4.5
受注残	16.0	19.0	28.0	32.5	26.0	26.0	31.5	17.5	8.5
施工高	18.5	17.0	23.0	28.5	25.0	25.0	30.5	11.5	6.5
収益	15.5	13.5	19.0	22.0	19.5	20.0	29.0	11.0	2.0
請負価格	5.0	3.0	6.5	13.0	8.5	12.5	14.5	8.5	6.0
原材料・仕入価格	16.0	16.0	18.0	23.5	19.5	15.5	21.0	14.5	15.5
在庫	0.5	1.0	-1.5	0.5	-0.5	1.0	2.0	0.0	-2.0
資金繰り	3.0	1.5	-0.5	4.5	5.0	3.0	6.5	-1.0	-4.5
従業員残業時間	8.5	14.5	20.0	21.5	17.5	14.5	14.5	10.5	7.0
従業員人手	-28.2	-36.0	-44.0	-44.0	-40.5	-39.5	-39.0	-36.0	-35.5
設備状況	-3.5	-2.5	-5.0	-5.0	-5.0	-7.5	-5.0	-3.0	-3.5

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は前期比11.5ポイントの悪化～

2020年1月～3月期、建設業の業況判断(DI)は20.0(前期比11.5ポイント減)となり、大幅な悪化となった(10ポイント以上の低下は2018年6月調査の前期比マイナス12.2ポイント以来)。

請負先別の業況(DI)は「個人向け」(前期9.5→今期21.1)は11.6ポイント増となったが、「大企業向け」(前期46.0→今期32.2)、「官公庁向け」(同28.1→同15.6)、「中小企業向け」(同27.4→同13.3)でそれぞれ10ポイントを超える減となった。来期予想の業況判断(10.0)は、引き続き悪化するとの見通しとなっている。

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	32	59	90	19
良い～悪い	40	5	19	12	4
DI	20.0	15.6	32.2	13.3	21.1

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益はかなり大幅悪化、受注残は大幅悪化～

売上額判断(DI)は16.0(前期比19.5ポイント減)となり、2014年6月期(前期比▲28.1)に次ぐかなり大幅な悪化となった。収益判断(DI)は11.0(前期比18.0ポイント減)となり、2009年の調査開始以来の最も大きな低下幅で、かなり大幅な悪化となった。受注残判断(DI)は17.5(前期比14.0ポイント減)となり、大幅な悪化となった。来期予想の売上額判断(4.5)は、引き続き大幅に悪化するとの見通しとなっている。収益判断(2.0)、受注残判断(8.5)も、引き続き悪化するとの見通しとなっている。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は悪化、原材料価格は改善～

請負価格判断(DI)は8.5(前期比6.0ポイント減)となり、悪化となった。原材料価格判断(DI)は14.5(前期比6.5ポイント減)となり、改善となった。来期予想の請負価格判断(6.0)は、悪化するとの見通しとなっている。原材料価格判断(15.5)は、小幅に悪化するとの見通しとなっている。

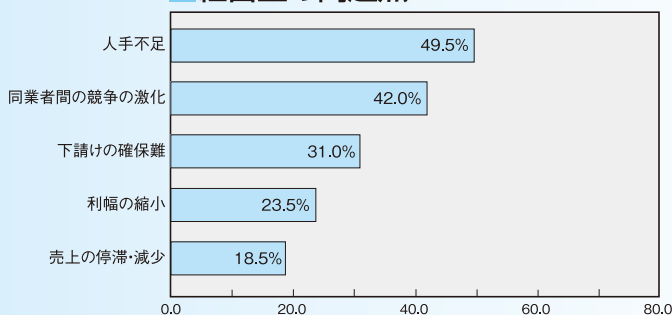
在庫・資金繰り・雇用面の動き

～在庫は小幅悪化、資金繰りは悪化、人手(▲36.0)は改善～

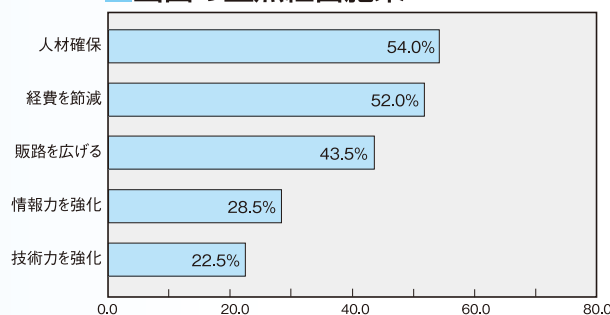
在庫判断(DI)は0.0(前期比2.0ポイント減)となり、小幅な悪化となった。資金繰り判断(DI)は▲1.0(前期比7.5ポイント減)となり、悪化となった。人手判断(DI)は▲36.0(前期比3.0ポイント増)となり、マイナス水準ながら改善となった。

来期予想の在庫判断(▲2.0)は、小幅に悪化するとの見通しとなっている。資金繰り判断(▲4.5)は、悪化の見通しとなっている。人手判断(▲35.5)は、ほぼ横ばいの見通しとなっている。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(1.0%)→今期(2.0%)、適正とした企業の割合は前期(59.0%)→今期(60.0%)、人手不足とした企業の割合は前期(40.0%)→今期(38.0%)となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

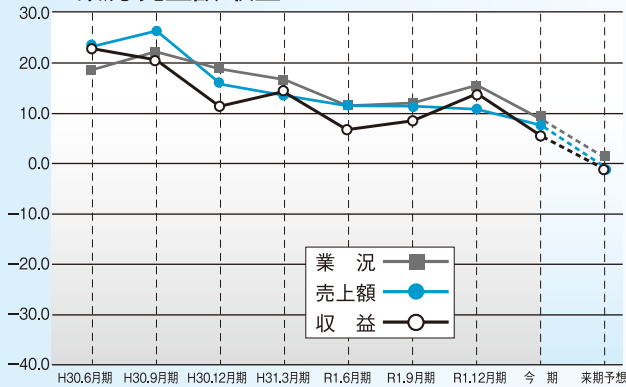


企業のコメント



- ・ 売上、収益とも増加している。ただ材料が新型コロナウイルスの影響で確保が難しくなっている。(内装塗装工事)
- ・ 業況は良い、受注も増加しているが、材料の品薄が工期の長期化となり業績への影響を心配している。(建設業・リフォーム工事)
- ・ 売上、収益は、やや良い状況にあるが、下請けの確保が難しい状況である。(土木工事、建築工事)
- ・ 今のところ売上、受注状況は良いが、今後の業績への新型コロナウイルスの影響を心配している。(総合建設業)
- ・ 売上、施工高、収益ともやや減少となった。資材等の納入がストップしており、工事の延期が出ている。(リフォーム工事)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、中国からの部品を扱うメーカーがストップ状態で工事が一時的にとまる状態が起っている。(建築工事)

業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	今期	来期予想
業況	18.5	22.3	18.4	16.9	11.5	11.6	15.4	9.2	1.5
売上額	23.1	26.1	15.4	13.8	11.5	11.5	10.7	7.7	-0.8
収益	23.1	20.7	11.5	14.6	7.0	8.5	13.8	5.3	0.8
販売価格	7.0	10.0	7.7	12.3	8.5	9.2	11.5	6.1	0.8
仕入価格	26.9	25.4	23.8	26.2	29.2	27.7	29.2	16.2	11.6
在庫	-25.4	-22.4	-19.2	-23.1	-18.4	-21.6	-16.9	-18.5	-17.7
資金繰り	-1.5	0.0	-2.3	1.6	-1.6	0.0	-4.7	-3.8	-4.6
従業員残業時間	2.3	4.6	0.8	-0.8	3.1	0.0	1.5	3.8	3.1
従業員人手	-3.9	-4.7	-6.2	-2.3	-2.3	-6.1	-6.9	-10.0	-11.5

業況について

2020年1月～3月期 ～業況は悪化～

2020年1月～3月期、不動産業の業況判断(DI)は9.2(前期比6.2ポイント減)となり、悪化となった。業種内容別業況で改善が目立ったのは、「仲介管理」4.9で前期比7.9ポイントの悪化となった。その他は以下のとおり「賃貸」14.3(前期比7.1ポイント減)、「建売」10.7(同4.9ポイント減)。

来期予想の業況判断(1.5)は、悪化するとの見通しとなっている。

◎業種内容別業況について(当期)

	全体	賃貸	建売	仲介管理
全体	130	14	75	41
良い～悪い	12	2	8	2
DI	9.2	14.3	10.7	4.9

売上額・収益の動き

～売上額、収益も悪化～

売上額判断(DI)は7.7(前期比3.0ポイント減)となり、悪化となった。収益判断(DI)は5.3(前期比8.5ポイント減)となり、悪化となった。来期予想の売上額判断(▲0.8)は、引き続き悪化するとの見通しとなっている。収益判断(0.8)は、引き続き悪化するとの見通しとなっている。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、仕入価格は大幅に改善～

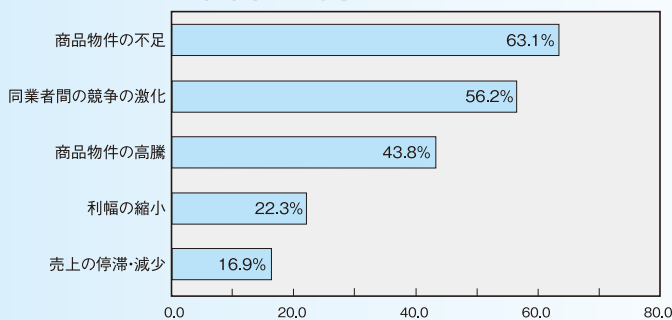
販売価格判断(DI)は6.1(前期比5.4ポイント減)となり、悪化となった。仕入価格判断(DI)は16.2(前期比13.0ポイント減)となり、大幅な改善となった。来期予想の販売価格判断(0.8)は、悪化するとの見通しとなっている。仕入価格判断(11.6)は、改善するとの見通しとなっている。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

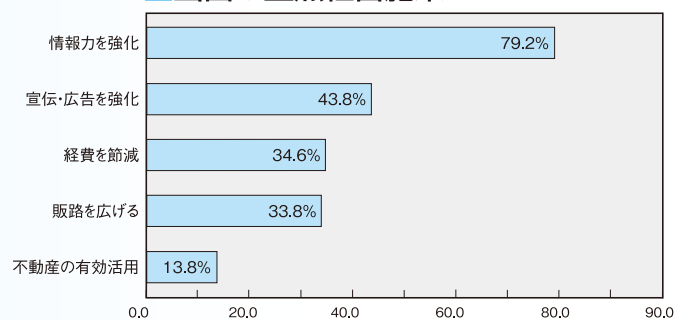
～在庫は小幅悪化、資金繰りはほぼ横ばい、人手は悪化～

在庫判断(DI)は▲18.5(前期比1.6ポイント減)となり、小幅な悪化となった。資金繰り判断(DI)は▲3.8(前期比0.9ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。人手判断(DI)は▲10.0(前期比3.1ポイント減)となり、悪化となった。来期予想の在庫判断(▲17.7)は、ほぼ横ばいとの見通しとなっている。資金繰り判断(▲4.6)は、ほぼ横ばいの見通しとなっている。従業員人手判断(▲11.5)は小幅に悪化との見通しとなっている。従業員人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期(2.3%)→今期(0.0%)、適正とした企業の割合は前期(88.5%)→今期(90.0%)、人手不足とした企業の割合は前期(9.2%)→今期(10.0%)となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント



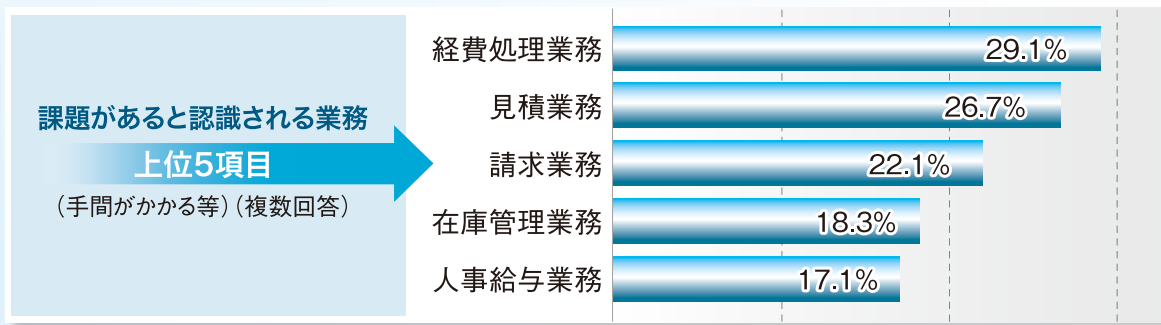
- ・ 売上、収益は増加となった。仕入価格の上昇で仕入は厳しい。(建設業)
- ・ 新型コロナウイルスの影響は今のところない。入居者の入れ替わりが多く忙しい。(不動産・賃貸)
- ・ 仲介による手数料収入は安定しているが、物件の高騰にて仕入、販売共に停滞。(仲介・販売業)
- ・ 在庫の販売は順調であるが、仕入物件が高く3区画以上のまとまった案件が難しい。(分譲住宅・注文住宅)
- ・ 新型コロナウイルスの影響で新設するトイレが不足して物件引渡の遅れが見込まれる。(分譲住宅・注文住宅)
- ・ 仕入価格は下がる傾向は見られず、解体業者も人手不足から工期の長期化が発生している。(建設・土地売買)

今回の北おおさか信金景気動向特別調査は「事務効率化」をテーマにアンケート調査を行いました。調査期間は2020年3月2日～6日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1200社で、有効回答は1197社(有効回答率99.8%)。

 手間がかかる・課題がある業務について

～総合的に経理関連の業務が上位を占める～

業務の中で手間がかかる、課題があると認識されている業務について聞いたところ、業種毎に多少のばらつきはあるものの、全体的には経費・見積・請求等の経理担当が関わる業務が1位～3位を占めた。続いて在庫管理が4位、人事給与等の業務が5位という結果になった。業種別にみると小売・卸売業についてはいずれも在庫管理業務や出荷・発送業務が平均よりも高めのポイントになっている。建設業においては見積業務が平均値を大幅に上回る回答(54.3ポイント)であった。



課題があると認識される業務(手間がかかる等) (複数回答) (業種毎)

全体	項目	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
29.1%	経費処理業務		23.5%	26.8%	19.3%	25.3%	35.0%	30.2%	44.2%
26.7%	見積業務		27.0%	29.3%	27.7%	6.7%	13.2%	54.3%	22.5%
22.1%	請求業務		17.5%	24.2%	26.1%	14.0%	17.3%	37.7%	14.7%
18.3%	在庫管理業務		22.0%	15.7%	26.9%	34.0%	13.2%	5.5%	17.8%
17.1%	人事給与業務		12.0%	13.1%	8.4%	14.7%	31.5%	15.1%	23.3%
16.6%	新規取引先開拓		16.5%	18.7%	10.9%	16.0%	18.8%	13.1%	21.7%
16.2%	受注業務		16.5%	18.2%	14.3%	10.7%	15.7%	26.6%	5.4%
15.4%	発注業務		17.0%	13.6%	17.6%	27.3%	9.6%	18.1%	3.9%
10.7%	勤怠業務		9.0%	9.6%	7.6%	6.0%	21.3%	9.0%	10.1%
9.8%	配送業務		12.0%	8.1%	16.8%	23.3%	10.2%	0.5%	0.8%
9.7%	出荷業務		17.5%	10.6%	20.2%	16.7%	5.1%	0.5%	0.0%
9.1%	納品業務		16.0%	11.1%	14.3%	14.7%	5.1%	2.5%	0.0%
8.1%	検品業務		16.5%	12.6%	13.4%	9.3%	3.6%	0.5%	0.0%
7.6%	事業承継		9.5%	10.1%	5.9%	3.3%	8.1%	6.5%	7.8%
3.1%	入金消込業務		2.0%	3.0%	3.4%	4.0%	4.6%	2.0%	3.1%
2.0%	支払消込業務		0.0%	2.0%	2.5%	2.0%	3.6%	2.0%	2.3%

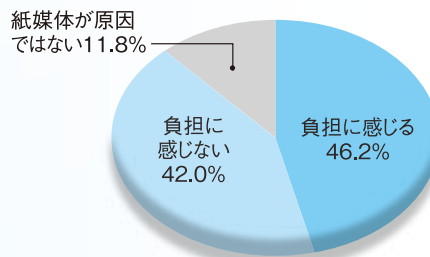
※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)

紙データの事務処理に対する負担について

～負担を感じる・感じないはほぼ横並び～

手間がかかる・課題があるとされている業務の中で、紙に記載されたデータを使用してパソコンへ入力するなど紙媒体を使用する際の作業負担について聞いたところ、ほぼ半々の回答であり、負担を感じるが負担に感じないを4.2ポイント上回るに留まった。また、不動産業と小売業においては逆に負担に感じないと回答する事業者が多く、全体の1割程度については紙媒体が原因ではないと答えた。

紙データの事務処理に負担を感じる
(PC入力など)(全体)



紙データの事務処理に負担を感じる(PC入力など)(業種別)

全体	項目	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
46.2%	負担を感じる		52.8%	48.0%	48.3%	41.3%	44.0%	50.0%	34.6%
42.0%	負担に感じない		38.2%	38.4%	40.8%	45.3%	41.0%	42.0%	52.3%
11.8%	紙が原因ではない		9.0%	13.6%	10.8%	13.3%	15.0%	8.0%	13.1%

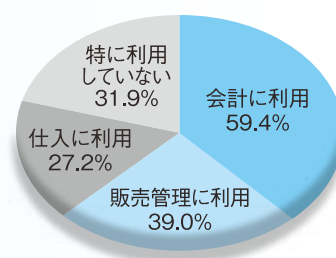
※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)

システムの利用状況について

～全体の3割余りはシステムの利用なし～

販売管理・会計・仕入のシステム導入について聞いたところ、全体の3割余りはいずれのシステムも利用していないと答えた。業種別にみると小売業の45.6%はシステムを利用していないと答えた。逆にシステムの利用が最も多いのは会計システムであり全体の6割弱が利用。業種別によるばらつきもあるが、製造業の67.3%が会計システムを利用していると答えた。販売管理システムと仕入システムについては卸売業の利用が最も多かった。

「販売管理」「会計」「仕入」
システムの利用状況(全体)



「販売管理」「会計」「仕入」システムの利用状況(複数回答)(業種別)

全体	項目	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
59.4%	会計に利用		67.3%	59.4%	60.2%	45.6%	59.0%	65.0%	54.6%
39.0%	販売管理を利用		48.7%	39.6%	52.5%	36.2%	37.0%	31.0%	29.2%
27.2%	仕入を利用		34.7%	33.0%	38.1%	26.2%	20.5%	22.5%	15.4%
31.9%	特に利用していない		23.1%	33.5%	28.0%	45.6%	34.5%	27.0%	33.8%

※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)

また、事業所の従業員規模別にシステムの利用状況を見ると、従業員10名未満の事業者では8割弱がシステムを特に利用していないと答えた。

「販売管理」「会計」「仕入」システムの利用状況(複数回答)(従業員規模別)

全体	従業員数(人)	販売管理を利用	会計に利用	仕入を利用	特に利用していない
34.1%	～4	17.8%	24.0%	14.5%	53.7%
23.4%	5～9	20.9%	22.4%	20.1%	24.7%
19.6%	10～19	23.9%	23.0%	25.0%	12.4%
8.0%	20～29	12.3%	10.4%	11.4%	3.7%
7.1%	30～49	11.8%	9.4%	13.9%	3.2%
4.8%	50～99	8.6%	6.2%	9.0%	1.8%
2.9%	100～	4.7%	4.5%	6.2%	0.5%

※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)



請求書の発行・受領枚数について

～全体の8割が概ね100枚以下～

1か月で発行および受領する請求書の平均枚数を聞いたところ、全体の8割余りが100枚以下であると答えた。うち6割弱は50枚以下。業種毎に数量を比較したところ、ほとんどの業種で請求書の発行と受領の枚数の比率に近いものであった。ただし小売業においては請求書発行50枚以下が36.7ポイントに対して、請求書受領枚数50枚以下が65.3ポイントと受領枚数の方が少ない傾向にあるという結果であった。

「請求書」の発行枚数
「請求書」の受領枚数

「請求書」の発行枚数・受領枚数(業種別)

項目	業種	業種							
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	
1～50枚	全体	56.1%	58.1%						
	製造業	47.7%	55.3%	36.7%	36.7%	49.5%	62.5%	78.1%	
51～100枚	全体	26.3%	26.7%						
	製造業	29.1%	30.7%	31.7%	31.7%	28.8%	28.0%	14.1%	
101～200枚	全体	10.5%	8.9%						
	製造業	16.1%	9.0%	17.5%	17.5%	11.1%	6.0%	5.5%	
201枚以上	全体	7.1%	6.4%						
	製造業	7.0%	5.0%	14.2%	14.2%	10.6%	3.5%	2.3%	

※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)

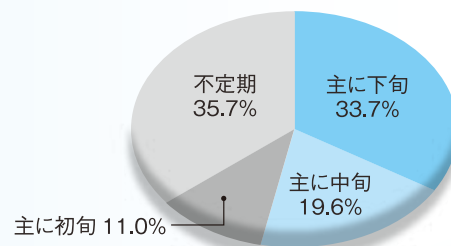


請求書が届くタイミングについて

～中旬以降が半数余り、不定期が4割弱～

請求書が届くタイミングがいつ頃かを聞いたところ、半数以上が中旬から下旬にかけて受領すると答えたが、不定期に届くという回答が35.7ポイントと最も多く、特に不動産業においては不定期に受領するが59.4ポイントと平均値を大きく上回った。

毎月の請求書の受領時期(全体)



毎月の請求書の受領時期(業種別)

項目	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
主に下旬	全体	33.7%						
主に下旬	製造業	36.5%	39.7%	34.2%	34.0%	32.8%	35.5%	18.0%
主に中旬	全体	19.6%						
主に中旬	製造業	24.0%	25.1%	23.3%	14.0%	15.2%	20.5%	12.5%
主に初旬	全体	11.0%						
主に初旬	製造業	11.0%	11.1%	10.8%	9.3%	12.1%	11.5%	10.2%
不定期	全体	35.7%						
不定期	製造業	28.5%	24.1%	31.7%	42.7%	39.9%	32.5%	59.4%

※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)



一覧形式の請求書について

～7割強が便利と反応～

一枚毎に送られてくる請求書が、一覧形式で受領できれば便利であるかと聞いたところ、7割強の事業者が便利だと思うと答えた。その中で、不動産業については平均値を15.2ポイント下回り56.3ポイントに留まった。

請求書を一枚毎の紙で受領するより一覧形式で受領できれば便利だと思いますか。(業種別)

回答	業種	業種							
		製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	
そう思う	全体	71.5%							
	製造業	72.5%	75.4%	76.1%	68.0%	71.6%	76.5%	56.3%	
そうは思わない	全体	28.5%							
	製造業	27.5%	24.6%	23.9%	32.0%	28.4%	23.5%	43.8%	

※調査は2020年3月。(小数点第2位以下四捨五入)

地域密着を信条とした67か店のネットワーク

店舗のごあんない

北おおさか信用金庫 店舗配置図



※地図はイメージです。

- | | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 吹田市水道部出張所 ◆ 吹田市役所出張所 ◆ JR吹田駅前さんくす出張所 ◆ イズミヤ千里丘店出張所 ◆ メロード吹田出張所 ◆ フレンドマート岸辺出張所 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 千里丘出張所 ◆ イオン高槻店出張所 ◆ セントラルマーケット出張所 ◆ イオンフードスタイル摂津富田出張所 ◆ アクトアモール出張所 ◆ フレンドマート高槻川添店出張所 ◆ ジョーシン高槻大塚店出張所 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 関西スーパー西冠店出張所 ◆ サボイ出張所 ◆ マルヤス宮田店出張所 ◆ コープ島本出張所 ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所 ◆ イオンスタイル新茨木出張所 ◆ 小曾根出張所 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 関西スーパー瑞光店出張所 ◆ 三国商店街出張所 ◆ 神崎川駅前出張所 ◆ 毛馬出張所 ◆ イオンモール大日出張所 ◆ 大池出張所 ◆ 庄内栄町出張所 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ ららぽーとEXPOCITY店出張所 ◆ 三津屋中出張所 ◆ 旭丘出張所 ◆ 相川出張所 ◆ 茨木市役所出張所 ◆ 塚本駅前出張所 ◆ ビエラ岸辺健都出張所 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 江口出張所 ◆ 此花出張所 ◆ 江坂出張所 ◆ みのおキーズモール出張所 |
|--|---|---|--|---|---|

営業地域(地区別) 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四条畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡
 兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡
 京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 2020年4月27日
 発行 北おおさか信用金庫 総合企画部
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32
 電話 072-623-4981(代)
 ホームページ <http://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>
 編集 株式会社 大阪彩都総合研究所

